

健康情報学研究科に期待すること

理事長 滝川嘉彦

大学院の役割は、専門的な研究者や高度専門職業人養成、そして学術研究の推進を通じて社会の発展に貢献することです。具体的には、学部で得た知識を土台に、より専門的で高度な知識・スキルを身につけ、新たな知の創造を目指す研究活動に取り組みます。また、実務能力の向上や、修士・博士などの高度な学位の取得を目指す社会人の学び直しにも対応しています。こうした役割や目的をもつ本格的な研究機関は本学70年の歴史の中で初めてのものであり喜びに堪えません。

健康情報学研究科に期待することは「食と栄養と情報」の研究とその融合です。国立公立大学の研究が「焦点を絞って深く掘り下げてゆくこと」と「高度な文理融合」であるとする、私立大学のそれは「人間の特徵に根付いた実践的な文理融合」だからです。AI草創期の現代人一番の興味は人間の立ち位置ではないでしょうか。大学院設置に先駆けて立ち上げた「食と栄養研究所」と共に、その立ち位置を模索する中で、名古屋文理大学の新しい教育研究の柱を築いてほしいと思います。

2025年時点で全国に大学は800校ほど存在しそこには約300万人の学生が学びます。国立が約90校で60万人、公立は約100校で15万人、私立大学は約600校で200万人の学生が学びます。国立が「世界最高水準の教育・研究（国大協）」を目標とするならば、私立大学の多くは「建学の精神」「社会連携と実践的教育」「柔軟な運営」の3点を特徴とします。このことは名古屋文理大学大学院も同様です。

また大学は学校教育法第83条で「学術の中心として、広く知識を授けるとともに、深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用的能力を展開させることを目的とする」と定められています。ただし具体的な教育方針や理念については各大学の設置者に委ねられており、本学は立学の精神によって「学問（研究を含む教育活動）を通して知識技術を磨き」と規定しています。名古屋文理大学大学院における研究も学生の知識・技術を磨く（教育の）ためのものです。

立学の精神

「本学は自由と責任を重んじ、学問を通して知識技術を磨き、健康を増進し、特に品性を高め、正しい歴史観と人生観をつちかい、世界から信頼される人間を育成する場である」